



記入日	2019 年 12 月 27 日 (2019 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	40 (日常の工夫①)
タイトル	1 分間で生徒の意識を変える「いつかその時の 5 秒前」 (大地震発生への自分事意識を持たせる工夫)
実践担当者のお名前	京
実践にかかった金額	ほぼ 0 円
実践の準備にかかった時間	なし
実践活動を実施した日時	(日々のちょっとした時間)
実践の所要時間	1 分
実践の運営側で動いた人の人数	1 人
防災教育の対象者の属性	中学生・高校生
防災教育の対象者の人数	約 450 人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	教室など

達成目標	【目的・目標】 ・短時間で生徒の意識を変える防災アクティビティを考案する。学校現場で、ちょっとした時間にできるものを目指す。 ・「まさか自分が災害に遭うことはないだろう」「いつかその時が来るかもしれないが、それは今日ではない」という意識を、ちょっとした工夫の積み重ねで変えていく。 【背景・経緯】 東日本大震災から時間が経つにつれて、「風化」という言葉を聞くようになったが、東日本大震災をきっかけとして、首都直下地震をはじめ、次に起こり得る災害に向けて、防災活動を進めている立場からは、「日々、次の災害に近づいていっている」という視点の転換を図りたいと考えた。	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	少し
	思考力・判断力・表現力	少し
	学びに向かう力・人間性	少し



実践内容・方法	以下のやり取りを、生徒と行う。 教員 (突然、思いついたように時計を見て、) 「あ！皆さん、大変です！あと 5 秒で大きな地震が来ます！」 …教員は無言で 5 秒カウントする… 生徒 (半信半疑ながらも、空でカウントする様子) 教員 (心底、ホッとした様子で、) 「あー良かったー。今は、来ませんでしたね。」 生徒 (ニヤニヤ…) 教員 (ちょっと真面目な表情で、) 「でも、皆さん、2011 年 3 月 11 日の地震が発生する、もしくは緊急地震速報が鳴る 5 秒前に、『あと 5 秒で地震が来る』と予想していた人？」 生徒 (ハッとした表情を浮かべる) 教員 「先生はあの日の 5 秒前は、週末は宮城に帰るつもりで、のん気にテストの採点を頑張っていました。」 生徒 「私も気づかなかったー」 教員 「今日は、たまたまそのときの 5 秒前ではありませんでした。でも、必ずいつか私たちは、『そのときの 5 秒前』を迎えます。だからその時まで一人一人がしっかりと備えましょう。」 ↓↓↓ ・このやり取りを日常の中で何度か繰り返す中で、「いつか大きな災害に直面する時が来る」という意識が、生徒の中に根付いていく。 ・勿論、生徒を怖がらせることが目的ではなく、話のオチとしては、防災に前向きに取り組む気持ちを持たせる。
----------------	--



得られた成果	・生徒が、「防災意識を変えた印象に残るアクティビティ」として、しばしば挙げてくれる。生徒と教員間のコミュニケーションとして、「お気に入りのやり取り」になっていると、教員は思っている。 ・「いつか自分が大きな地震に遭うかもしれないと思う人？」という問いに対して、ほとんどの生徒が即、手を挙げるようになった。 ・揺れが発生した時に、生徒たちがすばやく身を守る行動を取るようになった。この行動は、「いつ、5秒前になるか分からない」という意識が心のどこかにあることも、影響していると考える。	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	少し
	思考力・判断力・表現力	少し
	学びに向かう力・人間性	かなり
課題・苦労・工夫	今後、東日本大震災の記憶が薄い・ない生徒たちが入って来るので、「東日本大震災の5秒前」のことを思い浮かべてもらうことができないため、表現を変えていく必要がある。	

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	防災教育をちょっとやってみたいと思っている先生方
伝えたい内容 課題	防災教育を始めた初期の頃に考えたアクティビティです。思っていたよりも、生徒からの評判が良かったです。生徒の意識や認識を短時間でひっくり返すことができるので、お勧めです。



記入日	2019 年 12 月 18 日 (2019 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	41 (日常の工夫②)
タイトル	はにわ D E L E D
実践担当者のお名前	市橋 (社会科)
実践にかかった金額	1000 円未満/人 (粘土・LEDライト・送料など含む) 全体では,
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019 年 9 月 29 日～10 月 18 日
実践の所要時間	5 時間程度
実践の運営側で動いた人の人数	6 人:教員(2)・生徒(4)
防災教育の対象者の属性	小学生 (高学年)
防災教育の対象者の人数	約 10 人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所 例: ○○小学校体育館	目黒星美学園中学高等学校 美術室
★実践に必要なだった特定の能力を 持った人・物品・ツール・知識等	粘土・LEDライト・オープンなど

達成目標	粘土で埴輪を作ることを通じて、歴史に親しみ、さらに、LEDを埋め込むことまでを考えることで、震災時などにも卓上LEDとして利用できるものとして、防災意識を高めるものとする。 ★本プランは、小学生を対象とした本校の「体験授業・社会科」の一環で、実施した。	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	少し
	学びに向かう力・人間性	かなり



実践内容・方法	オープン粘土を用い、作成。  埴輪のベースを作成するために、紙コップ（予めラップを巻いておき、粘土を剥がしやすくする）を使用して、粘土を貼り付ける（ひび割れなどしないよう、厚さは耳たぶ程度）。 ↓ ベースが出来たら、思い通りの装飾を施し、LEDの光が洩れる穴を開けるなどの作業を実施。粘土は水をつけて乾燥を防ぎながらつけていった。 ↓ ▶ 高校生が作成した見本 2週間程度乾燥させてオープンで焼く。 クッション材を入れて発送。 これだと光が外に広がらなかったため、本番は、側面に穴を開けて作成した。 	
得られた成果	古代の営みに触れつつ、防災意識を高めることができた。	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	少し
	思考力・判断力・表現力	少し
	学びに向かう力・人間性	かなり
課題・苦労・工夫	10名程度の不慣れな児童を指導する場合は、教員1人では難しい（美術系教員であれば別だが）ので、高校生4名の助けも借りて、事前に練習も行い実施した。また、できあがったものを後日オープンで焼いたが、割れないよう事前にドベなどで加工する手間もかかる。 苦労	

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ

伝えたい相手	未来を担う小学生
伝えたい内容	身近な親しみやすい題材で防災を考えていきましょう！



記入日	2019 年 12 月 27 日 (2019 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	42 (日常の工夫③)
タイトル	備蓄食料でパン食い競争!? 選ばれたのは・・・ (台風 19 号に伴う臨時競技の実施)
実践担当者のお名前	太田 (体育科)
実践にかかった金額	3000 円未満 (ようかんの費用) ※ただし, 期限の近づいた備蓄食料を活用
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019 年 10 月 15 日
実践の所要時間	20 分
実践の運営側で動いた人の人数	10 人
防災教育の対象者の属性	高校生
防災教育の対象者の人数	約 80 人 (高校 3 年生)
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校 グラウンド
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	備蓄食料のようかん・パン食い競争用の棒と洗濯ばさみ

達成目標	【目的・目標】 パン食い競争のパンの代替品として, 備蓄食料を使い, 体育祭の種目とする。 【背景・経緯】 台風 19 号の影響で, 体育祭 (10/15 実施) のパン食い競争用のパンが必要数入手できない可能性が発生した。そのため, 急遽, 備蓄食料で使えるものがないか検討することになった。	
どの力を身につけようとしたか?	知識・技能	少し
	思考力・判断力・表現力	少し
	学びに向かう力・人間性	少し



実践内容・方法	①パン食い競争のパンの代替品として、何が使えるかを検討した。 ②野菜ジュースは重く、アルファ米やビスケットはサイズが大きいため、クッキーは期限が近いものがなかったため、ようかんに決定した。 ③パン食い競争の棒に、ようかんを下げる工夫をした。 ④当日は、準備できたパンと並べて、ようかんを設置した。		
			
得られた成果	・生徒からは「ようかんは、パンよりも取りづらい」という感想もあったが、インパクトはあり、体育祭の思い出として、印象には残った様子だった。 ・期限の近づいた備蓄食料の有効な活用になった。		
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	少し	
	思考力・判断力・表現力	少し	
	学びに向かう力・人間性	少し	
課題・苦労・工夫	・私立学校では、自校生徒分の食料を学校で準備するため、防災担当者からしばしば課題の1つとして挙がるのが、「水・食料の処分方法」である。期限の迫った食料の有効な使い道にもなった。特に競技に参加したのは高校3年生であり、例年、卒業前に備蓄食料を配布しているので、ユニークな返還の仕方にもなった。		
	課題		
	工夫		





記入日	2019 年 12 月 23 日 (2019 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	43 (日常の工夫④)
タイトル	誰でも防災係！日常の中で防災対策に生徒を巻き込む工夫 —大掃除で防災倉庫探検
実践担当者のお名前	京 (防災係)・(環境美化委員)

実践にかかった金額	ほぼ 0 円
実践の準備にかかった時間	なし
実践活動を実施した日時	2019 年 月 日 時 分～ 2019 年 12 月 21 日 時 分～時分
実践の所要時間	30 分
実践の運営側で動いた人の人数	1 人
防災教育の対象者の属性	中学生・高校生
防災教育の対象者の人数	約 5～10 人 (1 回あたり)
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校 防災倉庫
★実践に必要なだった特定の能力を 持った人・物品・ツール・知識等	バインダー・紙・ペン

達成目標	本校では、「一人一人が防災係」を打ち出している。学校の備蓄品の管理は、「教員がすべき防災対策」の 1 つであるが、防災教育の一環として、生徒と管理点検を行っている。	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	少し
	思考力・判断力・表現力	全く
	学びに向かう力・人間性	少し



実践内容・方法	①大掃除の分担のときに、「防災担当」の班を作ってもらう。 ②生徒が2人1チームになり、個数や期限などの備蓄品のチェックを行う。	
得られた成果	・生徒からは「思ったよりも楽しかった」という感想が聞かれる。大掃除の一環で、備蓄倉庫の点検をすることは、特別感もあり、楽しく感じる様子。 ・チェックにあたっては、予め一覧表にしたものを渡しても良いが、時間に余裕があるときは、白い紙を渡して、品名や期限を書き出してもらおうと、生徒はどのようなものがあるか、しっかりチェックして、より把握できる。 ・「防災担当の先生がいないときに、地震が起こるかもしれないから、ここに備蓄品があることを覚えておいてね」と必ず一言加えることで、学校の防災対策に対しても、生徒に主体性を持たせる。	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	少し
	思考力・判断力・表現力	全く
	学びに向かう力・人間性	かなり



課題・苦労・工夫 課題	備蓄食料を目にした生徒から、必ず「食べてみたい」という要望が上がるので、その声を拾って、試食会のようなイベントに繋がられると良い。
--	---

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	先生
伝えたい内容	日常のやり取りが、生徒の意識を変えるチャンスです。大きなことではなく、小さな積み重ねが一番、生徒の意識改革と成長に繋がりました。「防災に詳しくないから、担当ではないから防災教育ができない」という声をしばしば耳にしますが、毎日、生徒と共に過ごす教員が、やっぱり一番そのチャンスを握っているので、「先生は誰でも防災教育担当者」だと思います。



記入日	2019 年 12 月 10 日 (2019 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	44 (日常の工夫⑤)
タイトル	世界に向けて発信しよう！ 外国からのお客様に英語で活動紹介
実践担当者のお名前	小西 (教頭)
実践にかかった金額	ほぼ 0 円
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019 年 10 月 16 日 16 時 10 分～16 時 20 分 2019 年 10 月 18 日 15 時 20 分～15 時 30 分
実践の所要時間	10 分 (1 回あたり)
実践の運営側で動いた人の人数	人
防災教育の対象者の属性	中学生・高校生・教職員・海外
防災教育の対象者の人数	約 500 人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都世田谷区
実践を行った具体的な場所	目黒星美学園中学高等学校ラウラメモリアルホール
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	パワーポイント, 英語

達成目標	本校は、イタリア系の修道会が母体のミッション校であり、外国からの視察が来ることがある。今年は同時期にフランス人とアメリカ人のシスターの学校訪問があり、その歓迎会 (学校行事) の中で、生徒の代表による英語と日本語で被災地支援や防災活動の紹介を行うことになった。	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	少し
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	少し

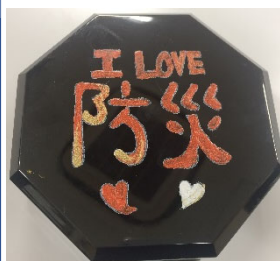


実践内容・方法	①スライドの作成（10 月上旬） ②原稿作成・英訳 ③リハーサル ④本番（10/16・18）	
得られた成果	【内容】 ・東日本大震災について ・被災地ボランティア研修がはじまったきっかけ（生徒が先生に活動を提案した） ・これまでの活動のダイジェスト版 ・被災地ボランティア研修から広がった活動の紹介（東京での復興支援イベント，地域での防災活動，地域でのボランティア活動）	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	少し
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり
課題・苦労・工夫	・準備時間が限られていたため，複数の教員・生徒で分担して，過去の資料やスライドを活用しながら，発表の準備を行った。	

苦労



記入日	2019 年 12 月 29 日 (2019 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	目黒星美学園中学高等学校
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	45 (日常の工夫⑥)
タイトル	修学旅行で「I♡防災」「We♡減災」
実践担当者のお名前	京 (中 3 担当)
実践にかかった金額	3000 円未満
実践の準備にかかった時間	なし
実践活動を実施した日時	2019 年 11 月 16 日 19 時 00 分～20 時 00 分
実践の所要時間	60 分 (小箱の制作時間)
実践の運営側で動いた人の人数	1 人
防災教育の対象者の属性	—
防災教育の対象者の人数	—
実践を行った都道府県と市区町村	京都府京都市
実践を行った具体的な場所	宿泊先のホテル (小箱の制作→使用場所は学校内)

達成目標	防災に関することに関心そうに取り組む教員の姿を見せることで、防災に対するポジティブな印象を生徒に与える。	2018 年  2019 年 
実践内容・方法	修学旅行の際に、 伝統工芸体験（小箱の絵付け）で、 教員が防災減災デザインを制作した。	
得られた成果	小箱の日常的な使い方を生徒に考えてもらい、 「授業で生徒の指名に使っている番号札」を 入れるケースにすることになった。 「生徒からの提案で使っている」ことを 紹介しながら、毎日持ち歩いている。	
課題・苦労・工夫	本当に小さな工夫であるが、こういったことが、 ① 生徒が防災・減災というワードを「日常のもの」として捉える積み重ねになり、また、 ② 「防災に関する提案を先生にしてみよう」という雰囲気づくりに繋がるので、大事にしている。	

